

強4新作



全国
高校野球

強攻、九回再逆転

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686

下野新聞社

電話 028-625-1111

郵便振替口座00350-0-407

©下野新聞社2007

読者室 028-625-1179

(受付・午前10時～午後6時)

編集局 028-625-1121

販売局 028-625-1120

広告局 028-625-1133

事業局 028-625-1134

下野新聞社ホームページ

<http://www.shimotsuke.co.jp/>

電子号外

下野新聞購読お申し込みは
フリーダイヤル
0120・810081

栃木のニュースを携帯でも!!



下野新聞 検索

▽準々決勝 (甲子園)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
新 智	0	2	3	0	0	0	0	0	2	7
作 弁	3	0	1	0	1	1	0	0	0	6

接戦で準決勝進出を決め、山下(左)とタツチを交わす作新・飯野
Ⅱ 甲子園

全国高校野球選手権大会第13日は18日、阪神甲子園球場で準々決勝の残り2試合を行い、本県代表の作新(2年ぶり7度目)は第1試合で智弁学園(奈良、3年ぶり16度目)と対戦、7-6で接戦を制し、史上初の春夏連覇を飾った。1962年以来、49年ぶりに準決勝に進出した。手に汗握るシーソーゲームを作新が制した。初回、智弁がいきなり3点を先制。しかし、作新もすぐさま取り返す。二回無死二、三塁から山下勇斗が中前にはじき返して1点を返すと、1死に大谷樹弘の中犠飛で1点差とした。三回、1死二、三塁で再び山下が二遊間を破り逆転。続く高嶋翔馬の中前打でさらに加点了。

智弁は三回に無安打で1点を返すと四回からはエース青山大紀が登板。五回に1点を返し追いついた。作新は六回から2番手の大垣憂斗が登板。1死三塁からは飯野徹也がマウンドに上がったが、暴投で逆転を許した。

しかし、1点を追う九回にドラマが待っていた。先頭の石井一成、板崎、佐藤竜一郎の3連打で同点。1死二、三塁から内藤の右犠飛で三走・板崎が生還し、再逆転に成功した。八回から再び登板した飯野がその裏の智弁の攻撃を3人で抑え逃げ切った。

作新は19日の準決勝第1試合で光星学院(青森、8年ぶり5度目)と決勝進出を懸けて対戦する。

次も欲出さず集中

作新・小針崇宏監督 九回は「流れがきている」と強気に攻めた。最後まで戦う姿勢が浸透している。次も欲を出さず一球一球集中して戦う。

「相手が上だった」

智弁学園・小坂将商監督 作新の打線はすばらしい。振り負けないようにしたが、相手が上だった。